

1. 単元名 奈良県ブランドの農作物を作ろう！

2. 単元の目標

- ・ 全国および奈良県には様々なブランドとなっている農作物があり、栽培の地域特性や農作物の優れた点を理解している。 (知識・技能)
- ・ 奈良県の気候や土地・文化の特色を理解し、奈良県にそのブランド農作物が作られている理由を理解し、表現できる。 (思考・判断・表現)
- ・ 奈良県で栽培できるブランド農作物の栽培計画を多角的に考えて説得力のある案として提案でき、奈良県の農作物を大切にしていこうという態度を持つ。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、総合的な学習の時間の目標「探究的な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成すること」を目指すものです。

奈良県の農業産出額は、430億円と、全国で45位である。また、農家数と農業就業者数は、年々減少してきている。そんな中で、道の駅のような農業販売所での農産物の販売額が増加してきている。こういった現状を理解して、奈良県の農業を振興させる方法を、ブランド農作物をヒントに考えたい。奈良県の農業振興を考える過程で、奈良県で農業生産が低いということは、他の地域から運び込まれた農産物を消費しているというSDGsの視点にも気づかせたい。

(2) 生徒観

生徒は、奈良県の農業について、あまり知らないのではないかと思います。また、自分でテーマを決めてそれを調べていくという探究的な学習の経験も少ないと思います。本単元を学習することにより、奈良県という郷土についてよく知り、それを改善していくシュミレーションを積極的に行うというとてもいい機会になると思います。

(3) 指導観

本単元では、奈良県の農業生産の現状をふまえて、ブランド農作物を考えることによって、奈良県という地域の気候や土壌などの自然環境の特性を考えながら、SDGsの視点にも理解を深めるものです。

第一次では、デパートや百貨店などで身近な全国のブランド農作物の調べ、クラスへ発表する。そのブランド農作物が、その地域でつくられるようになった経緯や理由などをみんなで考える。特に、気温や雨量などの気候や、伝統的な食文化などに着目できるようにする。奈良県の農業が農業産出額としては全国で45位の非常に低い現状であることを知り、統計やグラフを使って理解する。農作物直売所の「知の味

土の香」で年々売り上げが増加していることから、奈良県の農業の今後の期待について展望する。また、地産地消のSDGsの観点から、奈良県の農業を今後どのようにしていけばいいのか考える。

第二次では、奈良県のブランド農作物を一つ調べる。特に、柿、イチゴ、スイカ、茶、大和野菜などから自分で一つ選んで調べる。奈良県の気温や土壌・川の分布などの特徴から、その地域に根ざした作物が栽培されている理由を考えてみる。

第三次では、自分が奈良県で栽培するとよいブランド農作物を考えてみる。この地域でこのような方法で栽培したいという主体的な取り組みを目指す。みんながそれぞれ思い思いの果樹・作物を調べたうえで、クラス発表会を行い、みんなが考えた情報を共有する。

第四次では、実際に奈良県でブランド農作物を栽培している生産者や、ブランド農作物を加工して販売しているレストランの経営者のインタビューなどを通して、どのような工夫や苦労があるのか聞いてみる。自分の考えた奈良県のブランド農作物が実際の生産者・消費者に受け入れられるのか考えてみる。

(4) ESDとの関連

- ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）
有限性（限りがある）、相互性（関わりあっている）
- ・本学習で育てたいESDの資質・能力
3 多面的・総合的に考える力、4 コミュニケーションを行う力、6 つながりを尊重する態度
- ・本学習で変容を促すESDの価値観
- ・達成が期待されるSDGs
1 1 住み続けられる街づくりを 1 2 作る責任、使う責任 1 5 陸の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 全国および奈良県には様々なブランドとなっている農作物があることを理解している。</p> <p>② 栽培の地域特性や農作物の優れた点を理解している。</p> <p>③ 農作物のブランド化には、人々の様々な工夫や努力があることを理解している。</p> <p>④ 奈良県での地産地消の意義を理解している。</p>	<p>① 奈良県の気候や土地・文化の特色を理解し、奈良県にそのブランド農作物が作られている理由を理解し、適切に表現できる。</p>	<p>① 奈良県で栽培できるブランド農作物の栽培計画を多角的に考えて説得力のある案として提案できる。奈良県の農作物を大切にしていこうという態度を持つ。</p>

5. 単元の指導計画（全8時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○本時の課題「全国のブランド農作物を挙げてみよう」</p> <p>夕張メロン 宮崎マンゴー 岡山マスカット 南紀梅 魚沼産コシヒカリ</p> <p>○「なんでその地域で栽培されているのかな」</p> <p>北海道や宮崎の気候や土地の特徴の資料を見る。また、郷土料理のメニューを提示してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候によって栽培できる作物が変わっている。 ・土地の特徴によっても栽培できる作物が変わってくる。 ・その土地の文化や郷土料理によっても口に入れる食品は変わっている。 <p>○「奈良県の食料自給率が低いのはなぜだろうか？」</p> <p>奈良はどこから商品を購入して（運び込み）消費しているのだろうか。</p> <p>○奈良県の農作物の生産量は、現在どうなっているのだろうか。</p> <p>○地産地消（地元の農業振興、消費振</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校近くのデパートの贈答品売り場に見学に行き、お店の人に許可を得て写真を撮ってくる。クラスでみんなに発表する。 ・日本地図に全国各地のブランド農作物を図として貼っていく。 <p>・地域のスーパーなどに行って、奈良県民は、どの地域の食品を食べているか調べる。スーパーの仕入れ担当者にインタビューする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家数、新規就農数、農業輸出額の年次推移のグラフを提示して考える。 ・協定直売所「地の味 土の香」「よってって 大和郡山店」では、年々売り上げが増加している。その理由を考える。 ・生態系、ライフスタイル、国とし 	<p>△ア①</p> <p>△ア①</p> <p>△ア③</p>

	興) の良いところってどんなことがあるのだろうか。	ての食料安全保障、窒素の移動、ヴァーチャルウォーター、砂漠化、水不足、資本主義の観点などから考えてみる	
2	<p>○奈良県のブランド農作物を一つ調べてみよう。</p> <p>「柿」 「イチゴ」 「スイカ」 「茶」など</p> <p>○作物を栽培にあたって、奈良県の気候の特徴と土地の特徴を調べてみよう。</p> <p>○奈良県の行政機関は奈良県の農業についてどのような展望をもっているのだろうか。</p>	<p>・「各作物の栽培特性」について農業書などで調べる。</p> <p>・奈良でのブランド化が成功した理由について考える。</p> <p>・「気温と雨量の季節変化」「県北部と南部のちがい」「川の分布」「栽培作物の分布」の資料を見て考える</p> <p>・奈良県農業開発研究センターに見学に行く</p>	<p>△ア① △ア②</p> <p>△イ①</p> <p>△イ①</p>
3	○自分のブランド農作物をデザインしてみよう。	・奈良県で栽培できるブランド農作物を考え、栽培計画を立てる。	△ウ①
4	<p>○「奈良県でブランド農作物を栽培して、販売するために大切なことはどのようなことがあるか」考えてみよう。</p> <p>○「奈良県の農作物の生産や消費を増やすためにはどうしたらいいのだろうか。</p>	レストランや農家にインタビューに行き、意見を求める。	<p>△ア③</p> <p>△ウ①</p>